

派遣先所属 宮城県保健福祉部震災援護室
氏 名 角田 守
派遣期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の震災援護室は、災害救助法に関する業務を行っています。平成23年に発生した、東日本大震災で被災した住民に応急仮設住宅の建設又は、見なし仮設（民間借り上げ住宅）を供用してきました。東日本大震災は、甚大な被害から9年を超える期間で応急仮設住宅が利用されてきましたが被災者の退去により、供用が終了した応急仮設住宅団地の解体を行い、敷地を原状復旧した後に返還していきます。

担当業務は、応急仮設住宅の解体復旧にかかる工事の発注や監理が主な業務となります。今年度は、気仙沼市、石巻市、名取市に残っている応急仮設住宅団地の解体復旧工事を行います。残りの団地数もわずかとなり、順調に進めば東日本大震災関係の応急仮設住宅の業務は、今年度が最後になると思います。

気仙沼市と石巻市の現場を担当することになり、気仙沼市の現場は、解体工事後の原状復旧工事を引き継ぎました。公共施設及び民間から借地した敷地に、応急仮設住宅を建築された敷地を復旧させていきます。公共施設は、昨年度解体した現場をテニスコートに復旧する工事と共に、民間から借地した敷地を農地に復旧する工事を担当しました。

また、石巻市の現場は、公園（野球場）の復旧工事と民間から借地した敷地を農地に復旧する工事を担当することになりました。気仙沼市の現場と同様な業務ですが、大部分が土木工事となるので、工事仕様書から読み込んで勉強するところから始め、職場の同僚の助言をもらいながら進めることができました。また、民有地については、地権者との話し合いを行いながら現場を進めていきました。



気仙沼市の復旧現場（テニスコート）



石巻市の復旧現場（公園）

2 朝ドラのワンシーンから

宮城県において、東日本大震災時に応急仮設住宅に入居された被災者は、令和2年4月に、全員退去されています。応急仮設住宅の使命が終わり、解体工事を行っています。そんな折り、ドラマのロケの話が出てきました。令和3年上期に放送される連続ドラマです。宮城県が舞台となるので、地元の市町村も支援体制を作って、朝ドラを盛り上げる雰囲気となっています。県内の応急仮設住宅で、解体作業に入っていない最後の1団地となった気仙沼市内で、ロケを行うこととなりました。放映時は、数秒のシーンになるかもしれませんが、実際に利用していた応急仮設住宅をドラマの内で見ることができると思います（放映前なので、撮影したシーンが使われるか不明なのを付け加えます）。今回の機会は、地域振興にもなりますが貴重な震災の記憶になると思います。



撮影前の現地下見が行われた際の様子。

3 被災地へ派遣となって感じたこと

着任時は、新型コロナウイルス感染症の発生による通常と違った状態であったことから、仮設住宅を、感染症対策のため療養施設に転用できないか、マスク等の医療物資を保管する場所を確保するため、仮設住宅を利活用できないかという、緊急課題が発生しました。結果的には、仮設住宅を利用する事ことになりませんでした。初めの頃は、緊急課題に対する作業に追われていました。

震災時の状況は、遺構施設が震災の記憶を残しています。新しくなった街とのコントラストが印象的で復興の状況を見ることができます。県内で一番遠い現場となる、気仙沼市への移動は三陸道の整備により便利となるなど、震災復興が進んでいることを感じます。石巻市、南三陸町、気仙沼市と三陸道を走行していると津波で被災した街の復興を見ることができます。